

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年2月21日

事業所名 多機能型事業所 ちゅうりっぷ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	2	小上がりで休憩している子どものバギーは廊下で保管。	放課後等デイサービスの長期休暇時等、生活介護事業利用者や利用が重なるは併設している施設の会議室や体育館を使用する等スペースを確保している。
	2 職員の配置数は適切である	3	2		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	0	全面バリアフリー化されており、トイレも車椅子で入室可能。又、大人が利用可能なおむつ交換台が設置されている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	全ての行事や活動は企画書に沿って実施。終了後、報告書を使用し職員会議で評価している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	年に1度の保護者面談や毎月の職員会議にて保護者の要望や情報等職員全員で共有している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1	HP上で公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	第三者に評価して頂き、指摘された事項は直ぐに改善に取り組んでいる。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1	Zoom研修に派遣し業務の質の改善に繋げている、又、自己研鑽の情報等も発信している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	アセスメントにて保護者と子ども、又は利用者のニーズを把握、課題を分析し解決に向け個別支援計画書に反映している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	事業所独自のアセスメントツールを利用し対応、又、保護者から聴取する事で自宅の様子と事業所での様子と様々な面から確認している。	個別対応したツールではなく、全体としてツールな為改善の余地がある。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	会議で話し合い全体で計画している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	慣習行事や、外出行事等適宜組入れ固定化しないよう工夫している。	外出場所、対象利用者が固定しないよう曜日に設定し提供している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	形態に合わせた活動を設定し対応している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	子どもの障害特性に合わせ対応している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	朝の打合せに管理者参加の下、全員で確認している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	夕の打合せに管理者参加の下、全員で確認、共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	記録を充実させ検証や改善に活用している。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	年2回支援会議を実施、緊急性等がある場合は都度対応している。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	0	研修会議等で読み合わせを行い、理解した上で支援している。	

20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1	ケース担当職員及び児童発達支援管理責任者が参加している。	
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	必要に応じて適宜行っている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2	受け入れる場合にはそのように対応する	主治医との連携体制は保護者を通し、準備はしているがケア児の受け入れはしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0	担任から直接話を聞いたり、保護者を通したり連携体制確保の準備はしている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	0	事業所見学等の情報共有や相互理解の機会を設定している	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	5	機会があれば是非対応したい	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5	保育園や幼稚園等と定期的に交流を図っている。	今年度は感染症対策により交流出来ていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	5		今年度は参加の機会が無かった為参加出来なかったが、機会があれば積極的に参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	家庭との連絡帳を通しての確認や、送迎時コミュニケーションをとる事で状況や、共通理解を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	0	5		ペアレントトレーニング等は実施していないが、保護者の相談には真摯に対応している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	丁寧な説明を心掛けている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	保護者の相談に真摯に対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5		事業所主体の保護者会は存在しないが、都度、保護者の障害に対する啓蒙活動や保護者間の連携を支援しています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	2	苦情や要望があった場合、直ぐに全職員が共有し対応出来るよう、打合せの際に報告する項目を設けている。	保護者への周知が不十分なところがあり、存在を認識していない保護者がいます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	会報誌「えがお」を定期的に発行している。又、行事毎に様子等写真や文章で報告している。	
	35	個人情報に十分注意している	5	0	個人情報の取扱いについて同意書を準備し、確認後押印して頂き厳重に管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	保護者との情報の共有や子どもの様子について常に配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3		ボランティアや実習等は積極的に受入れているが、今年度は感染症対策により受け入れていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	4	保護者の方には契約時に説明し、職員は研修会議等で読み合せをし確認している。	職員は研修会議等で確認しているが、保護者への周知が不十分と思われる。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	毎月避難訓練に積極的に参加している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	法人全体での研修や事業所での研修会議等定期的の実施確認している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	組織的に決定した内容を保護者に丁寧に説明し、個別支援計画書に記載する準備はあるが当該事業所において事例はない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	保護者からの情報を基に医師指示や栄養士と連携し適切に対応している。	保護者からの情報を基に栄養士と連携し対応しているが、医師の指示書等の直接的な指示は受けてはいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	3	全職員が確認し共有している。	事業所全体でヒヤリハットを取り上げていき意識を高める必要性を感じる。